

令和5年度 生活習慣病重症化予防連携推進会議 議事要旨

- 1 日 時 令和5年11月16日(木) 19:00~20:30
- 2 開催場所 北九州市役所3階大集会室
- 3 参加者 [構成員] 河野構成員、海津構成員、益田構成員、柴田構成員、金井構成員、柳田構成員、岡田構成員、杉本構成員、前野構成員、田中構成員、古市構成員、松丸構成員、丸子構成員、高島構成員、竹浦構成員、増田構成員、足立構成員、田中構成員
[関係団体] 福岡県庁
[事務局] 保健福祉局健康医療部長、保健福祉局健康医療部健康推進課長ほか
- 4 議 題
 - ・北九州市の現状について
 - ・糖尿病重症化予防連携推進に関する取組の評価
 - ・CKD 予防連携システムに関する取組の評価と検討事項
- 5 議題概要

北九州市の現状について・・・資料2
議題資料について、事務局より説明。
<主な内容>

 - (1) 健康づくり推進プラン及び食育推進計画について
 - ・次期プランの策定にあたり、実態調査や各種データから北九州市の主な健康課題として「オーラルヘルス」「高血圧」「肥満」の3つを挙げた。
 - ・食育の課題では、調査の結果から「朝食の欠食」「野菜摂取不足」「食塩の過剰摂取」「エネルギー・栄養素の過不足」が明らかとなり、高血圧、肥満とも深く関係することから健康づくり推進プランと連携を図りながら取り組みを進めていく。
 - (2) 国民健康保険第三期保健事業実施計画（データヘルス計画）について
 - ・この計画は、北九州市国民健康保険に加入されている市民を対象にした計画で、生活習慣病予防による健康寿命の延伸と医療費の伸びの抑制を目的としている。
 - ・次期計画では、特定健診受診率向上のため、40・50歳代の若い世代への受診勧奨を強化。健診有所見者（特に高血圧）に対して、受診に繋がるよう保健指導を実施していく。
 - ・腎機能の低下防止対策、糖尿病性腎症重症化予防対策は、引き続き行っていく。
 - (3) 北九州市の現状について
 - ・特定健診の受診率は、新型コロナの影響で低下している時期もあったが、徐々に増

加してきている。特定保健指導実施率は、コロナ前の平成 30 年度と比べると約 10 ポイント下がったまま。

- ・メタボリックシンドローム該当者は、男性で 38.2%あり、全国に比べて 18 ポイントも高い状況。
- ・脳血管疾患、虚血性疾患、糖尿病性腎症と高血圧との重なりが多い。高血圧が重症化した疾患のリスクとなることから、高血圧の治療をしっかりとすることが重要。

(4) 生活習慣病の推移と肥満について

- ・健診有所見者のうち、Ⅱ度以上の高血圧の方で 64%、HbA1c7.0 以上の方で 37.1%の方が健診時未治療。高血圧の方はその後も未治療や治療中断者が多い。個別の保健指導でしっかり治療につなげていくことが必要。
- ・肥満は、どの年代でも増加している。若者健診でも肥満が多い。肥満は生活習慣病や重症化した疾患にもつながっていくことから、特定保健指導でしっかりとフォローしていくことが大切。
- ・肥満の啓発が必要。3月4日の世界肥満デーのイベントとして、北九州市でも3月2日に市民公開講座を行うことを計画している。肥満症に関する誤解や偏見を取り除き、正しい知識の普及を行うことが必要だと考えている。
- ・食環境の変化に伴い、個人の努力だけでは難しいところもある。外食やコンビニ等の食環境の整備も必要。
- ・運動習慣をつけることも大切ではないか。身近な公園等で運動ができるような設備があるとよいのではないか。

糖尿病重症化予防連携推進に関する取組の評価・・・資料3

<主な内容・結果>

(1) 各団体の役割について

(2) 取組の評価

- ・手帳の普及率は、前年度と比べて上昇しており、手帳の活用が進んでいると考えられる。
- ・血糖コントロール不良者、未受診者、治療中断者の割合は、いずれも減少しており、改善傾向である。

(3) 各団体の取組状況について

- ・歯科医師会では、病院と連携し、糖尿病教育入院時に歯科医療機関の受診を進めるとともに、糖尿病教室等で歯周病についての講話等を行っている。
- ・CDEの会では、4年ぶりに世界糖尿病デーのイベントを再開した。街中でのイベントのため、糖尿病に無関心の方へも普及啓発ができた。市民糖尿病教室も開催。

CKD予防連携システムに関する取組の評価と検討事項・・・資料4

<主な内容・結果>

(1) CKD予防連携システムについて

- ・運用状況について、様式2・4共にR元年から減少傾向であったが、R4年度は増加している。
- (2) 取組の評価
- ・新規透析導入者数の推移では50歳未満から69歳までは減少傾向にあり、70歳代以上では増加傾向にある。
- (3) CKD重症度シールの運用について
- ・ヒートマップの赤に該当する方が多い、次にオレンジが多く、黄色はわりと少ない傾向にある。かかりつけ医が複数ある場合もあるので、医薬連携は重要。
 - ・薬局でも見る機会は増えてきた。薬局でも必要な情報であるため、もっと活用していただきたい。
- (4) 患者さん用パンフレットの更新について
- ・昨年の会議の意見をもとに修正を行った。

■次回開催について

令和6年10月～12月頃を予定。